

地域にはばたく市民パワー！



ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2018年6月号(第117号)

発行責任者 佐藤 重松



シニア世代デビューの会 市民文化フェア参加 (2018.04.07 航空公園内)



ところざわ倶楽部

第6回文化祭開催

素晴らしい多彩な作品との出会い!! 舞台では上質なパフォーマンス!!

6月6日、中央公民館ホールに於いて、第6回の文化祭が開催されました。

関東地方も梅雨入りと云うなか、足元が悪いにも拘わらず、150名を超える方々にご参加頂きました。展示部門にあつては、水彩画や水墨画をはじめ、スケッチ画や絵手紙・写真・彫刻・陶芸・漢詩・書道・生け花・俳句など、趣味の領域を超えた多彩な作品に感動しました。また、舞台部門に於いては、其々のジャンルで、上質なパフォーマンスが会場と一体となって進行。民話の会の高齢者施設や小学校・児童館へのボランティア活動の報告も兼ねた「所沢の民話」2題と、野老澤の歴史をたのしむ会の「所沢の駅の不思議」により、所沢の歴史を学びました。スマイル・パイレーツのチアダンスは華やかで、“楽しく生きる力”を感じました。食トコはフードバンク活動と、日本の食品ロスの問題や賞味

期限内食品の有効活用を訴えました。

休憩時間には、生きいきシニア福祉の会の指導により、参加者全員がストレッチ体操でリラックス。とことこバンドの皆さんの演奏には、ところざわ倶楽部の文化祭には欠かせない存在感を感じました。ドラカンの朗読劇「ハムレット」は会場全体が引き込まれる圧巻の演技で、万雷の拍手に包まれました。

フィナーレは、文化祭恒例となりました、懐かしの映画・鑑賞会の同級会音頭や炭坑節と、参加者が一体となって舞台いっぱい踊った所沢音頭で楽しさの中、幕を閉じました。

これほどの上質な「アクティブシニア」が繰り広げる文化祭のパフォーマンスを、もっと多くの方々に触れて頂かなければ“モッタイナイ”と切に思いました。

(事業部：佐藤 重松)

写真で見る文化祭（展示部門）

第6回文化祭は、舞台部門と展示部門で充実した内容で開催されました。展示部門の内、何点かご紹介いたします。（敬称略）
（写真提供者：仲山 富夫、橋爪 良輔、中島 峯生）



むさし野俳句会



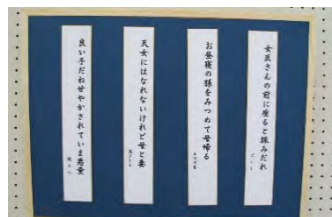
活け花 安田 好子、佐藤 美津子



黒御影花器 柳澤 千賀子



仏像彫刻 丸山 節



「広場」川柳の仲間



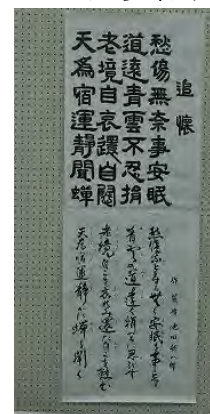
能面しかみ 多胡 國男



水墨画 王者 清水 仁一



書 平和 中原 幹男



漢詩 追懷 池田 新八郎

市民大学は今

市民大学OB三団体と第25期企画委員との懇談会開催

懇談会は、5月24日（木）13：15～14：45生涯学習推進センター301学習室で実施しました。団体より「さんさん会」会長 水島靖彦氏、「所沢市民大学OB会」会長 七井孝夫氏、副会長兼事務局長 長本和男氏、「ところざわ倶楽部」会長兼事業部長 佐藤重松氏、副会長兼総務部長 中原幹男氏にご参加いただきました。

今回の懇談会は、9月に予定されている第25期修了者への三団体説明会の実施及び10月開催のグループワーク発表会聴講の協力依頼と企画委員及び各団体が組織、活動状況、諸課題等につき情報交換を行い、相互に認識・理解の深化ができればとの思いで企画しました。

市民大学第25期企画委員長 川上 紀春

団体の特色ですが、広報誌は、さんさん会が2か月に1回、OB会は年2回発行しているそうです。活動内容・組織については、他の二団体は、ところざわ倶楽部のような組織的なサークル活動はありません。ところざわ倶楽部と同様に団体が講演会、講座開催等の大きな行事を計画しますが、その他の個別企画は、同好の士の呼びかけで都度計画・実施しているとのこと。最後に、ところざわ倶楽部佐藤会長より、今後高齢化が進む中で、各団体のご近所同士の会員が交流できるような仕組みづくりができれば良いのでは、との提案があり印象に残りました。

「戦争と平和！」第1回

遺 骨 迎 え

松本 タケ子

村に汽車が通るようになって間がない日、通学班の小学生の私達は先生に連れられて、学校に程近い駅前に並んでいた。私は一年生だったから、友と最前列にいた。風の強い日で駅前に張られた白黒の幕が千切れそうに、はたはた鳴っていた。大きな汽笛



宮口付近を行く蒸気機関車

の音と共に汽車が滑りこんで来た。やがて、新しい改札口を通過して、お婆さんと二、三人の男の人が降りてきた。お婆さんは、白い布に包まれた四角の箱を首に下げていた。皆の前に歩いて、深いおじぎをした。私達も最敬礼をした。ちょっと男の人の話があった後、キミズカ先生がタクトを振り、練習してきた「♪ 命を捨てて、マヌラオが、たてしいさおはあめつちの・・・」と歌った時、キミズカ先生が泣き崩れた。子供たちは啞然として歌えなくなった。そのまま、しばらく無言が続いた。その後、キミズカ先生には学校で会う事はなかった。出征したのかもしれない。

遺骨の箱を首に下げたお婆さんを先頭に、私達はずっと続く田んぼの中の道を歩いた。右側に見えてきた古戦場の三方原大地に、大きな、大きな、真っ赤な夕日があった。唯、皆が履いている藁草履の音だけがひたひたと続いた。かなり歩いてお婆さんの家に着いた。外庭に並んで、家の中の台に安置された箱に、上級生の号令で礼をして、薄暗くなりかけた道を家に帰った。

遺骨迎えをしたのは、たった一度、この時だけだった。今考えると列車開通のイベントだったのだろうか。家の廻りを見廻すと、父、夫、子供が戦死した家が何軒もあったが遺骨迎えをした覚えがない。

戦況がどんどん厳しくなり、田舎にも警戒警報、空襲警報が多発されるようになり、他家に気を配る事ができなくなった。その後、戦死者がどのように家に帰られたのか、遺族はどんな日々を送られたのか、考えられなかった。決して平坦な日々ではなかっただろう。たった一枚の召集令状で、穏やかな日常が断ち切れ、戦死の報にも泣く事もできず、耐える事しかない日々だっただろう。

八月十五日、天皇陛下の一言で戦争が終わった日、はばかり事なく泣いたに違いない。国民皆が飢え、生きる事に必死だった日をどう生きていたのだろうか。戦争は庶民の暮らしを破壊した。建て直すのに多くの月日を要した。



真っ赤な夕日

あの日から数十年過ぎたのに、真っ赤な夕日を見ると、幼い日の数々の出来事が思いだされる。故郷の風景と共に。

あの時の駅（宮口駅）は無人駅になって、そのままの駅舎が古ぼけた姿で、まだ、ひっそりと建っている。



宮口駅プラットフォーム

時局講演会感想

「政治とジャーナリズム」

活いきシニア福祉の会 青山 さわ

私達国民は直接的に政治や行政活動についての情報は入ってきません。マスメディアを媒体として提供されて世論が形成されます。

この一年間以上も、国会で論じられたテーマは森友・加計学園の問題であり、強力な政治的圧力で官僚行政が歪められています。多くの国民は政治に信頼を持てずに疑念を抱いています。真相に迫れるのでしょうか。

このような時に、門奈先生の講演を聴講できましたことは政治とジャーナリズム、メディアを考える貴重な体験となりました。「政治がメディアを動かしているのか・メディアが政治を動かしているのか」の問題意識が先生の研究動機であり、「民主主義の根幹である世論の形成にはマスメディアのジャーナリズム活動が不可欠で、政治とジャーナリズムの健全な対立構造が無ければならない。」と話されました。

日本は戦前に似た世相になってきたとも言われますが、メディアはナショナリズムやポピュリズムの防波堤になり得るのでしょうか。情報の受け手としての私達国民はデジタル・リテラシーを高め、自律的に行動して民主主義の理念を掲げていかなければならないでしょう。米国の最高機密文書暴露事件「ペンタゴン・ペーパーズ」が映画化されています。政治に関心のない私にとっては、政権、ジャーナリズム、メディアを問い直すよい教材として期待しているところです。

市民大学 25 期企画副委員長 小走 典子

門奈先生は、市民大学でもご講義くださいましたが、私は欠席したため、聞くことが出来ませんでした。それで、とても楽しみにしておりました。

先生は終始穏やかな調子でわかりやすくお話をして下さいました。

私は、最近上映されたスピルバーグ監督の「ペンタゴン・ペーパーズ」に、関心をもっていましたの

で、先生が「ニューヨーク・タイムズペンタゴン・ペーパーズの最高裁判決」について、お話して下さったのが、とても興味深く思いました。特に判決文の中の「報道の自由が民主主義に必要なものであること、そして制限を受けない報道のみが政府の偽りをあばくことができる」という点に納得しました。アメリカの最高裁はさすがだと思いました。ジャーナリズムの目的は「権力監視」であってほしいと思います。

信じられないような問題が次から次へと出てきているにもかかわらず、新聞やテレビでの取り上げ方に違いがあり、徹底的に問題と向き合うこともなく、いつのまにか、うやむやにされてしまいそうで残念でなりません。

また、アベマTV（放送法の縛りがないTV）のこと、メディア対策の請負人の存在、情報操作などを聞くに付け、今の若い人たちが新聞を読まず、本離れであることに、ますます不安を感じます。自分の頭で考えて、騙されない賢さを身につけてほしいと思います。

最後になりましたが、先生の貴重なお話を聞き、私は、次世代の子供たちに少しでも良い世の中を残していけるよう、今の自分に何ができるかを考え、行動していこうと思いました。

ありがとうございました。

所沢の自然と農業サークル 千葉 悟

25 期の講座「メディア論」で好評であった門奈直樹先生の講演である。先生の研究は 50 年にわたっており、研究を 3 期に分けている。第一期は占領下の沖縄におけるアメリカ軍の言論統制。第二期は歴史の中の日本のジャーナリズム。第三期は日本とイギリスのジャーナリズム比較を現在も継続中である。

沖縄のジャーナリズムが確立したのは、本土復帰する昭和 47 年にアメリカ軍の検閲が廃止となつてからだ。それは抵抗のジャーナリズムでもある。それまでは高校の文芸誌までもが検閲の対象になっていた。

(次頁に続く)

時局講演会感想

「政治とジャーナリズム」

作家の百田尚樹氏が沖縄の2紙(沖縄タイムス、琉球新報)をつぶさなければとの発言があったがそれは沖縄の歴史を知らず、またジャーナリズムの真の意味を理解してないからとバツサリ。最近、埼玉で「梅雨空に9条守れの女性デモ」という俳句を公民館側が掲載を拒否した事件があり、昨年10月の判決では掲載しても問題がないのではとの見解。これを先生は市民による素朴なジャーナリズム活動の意義をスルーした内容で裁判所、弁護団とも木を見て森を見ていないと一刀両断。

昨年の流行語大賞に選出された「付度」。私自身初めて聞いたとき意味が解らず辞書を引いた記憶があるこの言葉は、森友学園の籠池元理事長が使ったそうだが、この件に関連し辞職した前川前文部次官が日本記者クラブで、NHKから1時間のインタビューを受けたが自主規制と付度姿勢によって全く報道されなかったと発言。この森友報道の新聞での扱いは朝日14、毎日11、日経4、産経3、読売2(17年2月1日~22日)である。

安倍首相が議会の答弁の中で“読売”の記事の通りなのでそれを読んでくださいと繰り返す。これはメディアの差別化であり、また「こんな人たち」には負けるわけにはいかない発言は「排除」の理論に基づく国民意識の分断化であるとの見解。

「フェイクニュース」という言葉はトランプ大統領の造語だそう。不都合なメディアを徹底的に排除し、自分の意見を一方的にツイッターにて発信している。日米含めこのような世界状況に対し、私たち大衆はメディアワイズ(メディアに対し賢くなる)になり、ネット社会に対してもDIQ(デジタルIQ)を高めなくてはならない。そのためにも色々な本、注意深く新聞を読むことが大切なのではとの事。

私が思うには仏教でいう「智慧」(知識や教養ではなく、物事を正しくとらえる力)の体得が今こそ必要な時代になったのではと思うのだが。現在の政治、メディアがどのような状況になっているのかを分かり易く解説していただき大変有意義でした。また講演を企画された皆様本当にありがとうございました。

野老澤の歴史をたのしむ会 佐野 弘太郎

最初に、新聞を「毎日読む人」50.6%(平均年齢57.4歳)「全く読まない人」25.0%(平均年齢33.8歳)という数字に驚きました。アナログ人間の私の情報源は、新聞が主で、ラジオ、テレビなどで補っています。

しかし、新聞、テレビは旧メディアであり、ツイッター、ユーチューブ、フェイスブックが新メディアとなっており、市民に大きな影響を与えるようになっていきます。安倍首相の周辺にはメディア対策の請負人として大手広告代理店があると推察されます。

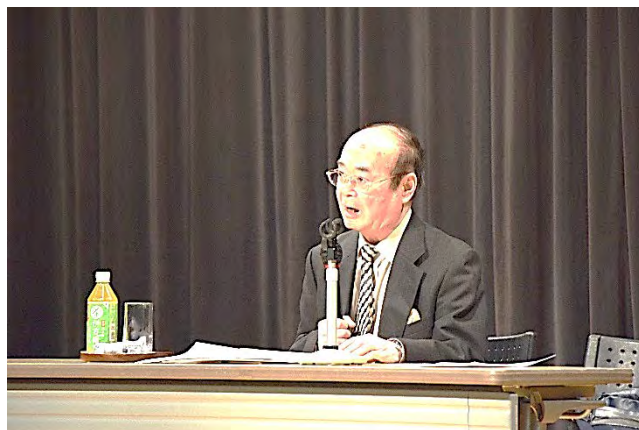
近年のテレビ番組では、どの局も「昭和は輝いていた」とか、ただ単に昔を懐かしむものが多すぎます。まさにかつて大宅壮一氏が喝破したように「一億総白痴化」をはかり、国民の目をそらせて、良からぬことを企んでいるとしか思えません。

政治とジャーナリズムは時代によって、対立、協力、迎合など様々な関係をもってきました。安倍首相は、メディアの選別化、分断化によって、「排除」の論理に基づく国民意識の分断化を図っています。

これからは、「メディアを読み解く能力」の涵養が必要です。

アナログ人間の私は、「心眼」を見開いて、状況を判断していこうと思っております。

以上、先生のお話を聴いての、私見です。



講演中の立教大学名誉教授 門奈 直樹氏

時局講演会感想

「政治とジャーナリズム」

市民大学 23 期 永吉 種広

新聞記者の間では、「読売ヨタモノ、毎日マユツバ、朝日ニセ紳士」という言葉が自虐的な意味を込め囁かれているという。この言葉は新聞が真実を伝えているか、との疑念を抱かせます。門奈直樹先生の講演「メディア論：政治とジャーナリズム」を聞いて、権力とジャーナリズムの対立構造がわかり、メディアの危機的状況を再認識させられました。

民主主義は長い歴史の中で発展し、人権、自由、平等といった人類の普遍的な価値を生み出してきました。この民主主義を守るのは、ジャーナリズムの使命である「権力監視」と「知る権利」を保証してこそ達成できると、世界の歴史が教えています。

先生の話された「報道の自由度」ランキングの世界調査（フリーダムハウス）では、日本は安倍政権になってから、11 位（2010）から 61 位（2015）に急落してい

ます。その原因は、時の権力者が、メディアに対して、強力な圧力をかけていることが、反映していると思われます。例にとれば、特定秘密保護法の成立や共謀罪の導入、メディアに対してのアメとムチの使い分け、高市総務大臣の電波停止の言及（2016）、百田尚樹氏の琉球新報と沖縄タイムスをつぶす発言、朝日新聞の慰安婦問題への攻撃と読売新聞への厚遇など。加えて、安倍政権への辛口キャスターらの降板などもあり、メディア内に自己規制が増え報道の自由が圧迫され、「報道の自由度」の急落につながったように思えます。

先生が最後に述べられた言葉「メディアに対し賢くなれ」（メディアワイズ）は、メディアが発信する膨大な量の情報の中から、何が真実かを「読み解く力」と「判断能力」を養うことが大切であると、教えられた講演でした。

サークル活動報告

所沢の昔に“タイムスリップ”をたのしむ

野老澤の歴史をたのしむ会 小川 雅愛

活動テーマ全般では今年がちょうど明治維新 150 年にあたることもあって、幕末から明治維新期にかなりシフトしています。もう一つの試行は会員を入会年度が偏らないように 5 つのグループに分け、活動の実行を委嘱していることです。市民大学の 2 年次のグループとは趣は違いますが、同じ歴史好きという仲間内ですので半期の 8 回ではまずは円滑に進行しています。2 月 1 日の県立歴史と民俗博物館の特別展「明治天皇と氷川神社」見学が本年度のスタートにふさわしい活動になりました。2 月末の歴史講座「幕末期の所沢商人」は所沢の商人の 2 つの河岸街道を経由しての江戸での産直活動のイメージが 4 月の新河岸川の河岸付近の歴史散歩を膨らませることになりました。



「難波田氏館跡」の橋の上

今年から始めた東川ウオークは「川と文化を知る」新鮮なアプローチになっています。講座や専門家の案内を聞き、身近な歴史の現場を自分の目で知る。そんな楽しみを続けたいと願っています。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (水上 俊彦 2922-6420)

6月14日(木)13:30～15:30 中央公民館

第3回「源氏物語」と能「夕顔」講師:竹内好夫観世流師範

7月12日(木)13:30～15:30 中央公民館

第4回「平家物語」と能「敦盛」・「忠度」(最終回)

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

6月13日(水) 13:30～ 中央公民館

米朝会談をとりまく諸問題について

7月25日(水) 13:30～ 中央公民館

戦争体験を聞く会(予定)

3. 活いきシニア福祉の会(川上紀春 090-5573-2548)

6月27日(水)10:00～12:00 場所未定

7月25日(水)10:00～12:00 定例会

生涯学習推進センター(予定)

所沢市役所出前講座計画中(高齢者福祉関係)

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)

6月19日(火)ヴェルディ歌劇「ナブッコ」1986

ムーティ指揮 ミラノ・スカラ座管弦楽団

7月17日(火)ヴェルディ歌劇「イルトロヴァトーレ」

いずれも 13:15～ 中央公民館3階 8・9学習室

5. 食を通して所沢を知る会(園田 ヒロ子 090-4005-1882)

6月12日(火)14:00～17:00 場所中央公民館3F

「食の安全と種の話」ミニ講演会 山田正彦講師

7月3日(火)東京大学 時間未定

東京大学「学食を食す」・近隣散策

6. 地域の自然を考える会(岩本 賢次 2923-9324)

6月26日(火)10:00～12:00 12号地生保全整備作業:
下草刈り、常緑樹の間伐など。作業ご希望の方、北中グランド

西側のトロ12号地に、現地参集ください(事前申込み不要)

6月3日(火) 柳瀬川上流4地点の水質調査実施

7. 地球環境に学ぶ(中島 峯生 2928-1161)

6月12日(火)14:00～17:00「食の安全と種の話」聴講

6月19日(火)9:00～11:00 新所沢東公民館 6月度定例会

上記等講演会感想話合い、環境持寄り学習

7月17日(火)9:00～定例会、DVD 不都合な真実2貸します

8. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)

6月20日(水) 13:15～ 中央公民館 定例会

議題:シニア世代 なんでも塾 新企画について

6月23日(土) 13:00～ 生涯学習推進センター

SP チアダンス練習 見学歓迎

9. 所沢の自然と農業(清水 仁一 2944-8835)

6月12日(火)14:00～17:00 場所中央公民館 3F

「食の安全と種の話」ミニ講演会講演会 他サークルと共催

6月14日(木) 13:00～ 新所沢公民館 定例会

7月28日(木) 市民大学ファーム「夏の収穫祭」

10. 野老澤の歴史をたのしむ会(小川 雅愛 2907-9476)

6月21日(木) 13:30～16:00 中央公民館 13:00 集合

講座「所澤宿の歴史」講師 野老澤町造商店三上博史氏

7月5日(木) 14:00～16:00 中央公民館

講座「所沢の遺跡 発掘の歩み」市文化財保護課中島氏

11. ドラマティック・カンパニー (柳澤 千賀子 2968-5035)

7月7日(土) 中央公民館 10:00～12:00

7月21日(土) 新所沢公民館 10:00～

「ハムレット」を終え、「マクベス」を読み進めます。

21日は暑気払いを計画しています。

12. 懐かしの映画・鑑賞会(二上 拓夫 080-1250-6151)

6月12日(火)10:00～12:30 西新井町会館

邦画「二人の恋人」(69年) 加山雄三・酒井和歌子

6月26日(火)10:00～12:30 西新井町会館

洋画「終戦のエンペラー」(13年)マッシュ、片岡幸太

13. 脳活サークル(加曾利 厚雄 2939-2308)

6月25日(月) 13:30～ 定例会

こどもと福祉の未来館 多目的室2号

会員・安田好子による「フラワーアレンジメント」

花代・500円、そして全会員により「音読」

14. 北欧の会(樋口 俊夫 090-6483-7993)

7月例会、8月例会はお休み致します

15. 傍聴席(石堂 智士 2947-0835)

6月18日(月)14:00～16:30 新所沢東公民館 学習会

「会員フォーラム」: 会員講師による説明と質疑応答

講師予定: 村瀬氏、栗田氏、石堂氏

次月予定7月17日(火) 出前講座「学童保育」

16. 民話の会(仲山 富夫 090-3902-0283)

6月15日(金) 10:00～13:00 こどもと福祉の未来館

定例会 「東光寺の金毘羅さん」「滝の城の竜」読み合わせ

* 明峰小学校でのお話会、日程調整

7月20日(金) 定例会 8月は休み

理事会報告

5月14日(月)第6回理事会開催

◆事業部 6月6日文化祭に続き、6月22日から文芸講座
の開催に当たり、理事および会員の協力をお願いしました。

◆広報部 「広場」新シリーズ「戦争と平和!」の思いを綴ろう
原稿募集をアピールしました。

(募集要項は広場5月号に掲載)

次回理事会 7月9日(月) 新所沢東公民館

みんなの広場 第5回

食を通して所沢を知る会

矢崎 みどり

能と私

「一体何なの？」という疑問を持って10年程前、ミューズの能楽体験ワークショップに参加しました。観世流能楽師から摺り足の歩き方から始まる数回の指導を受け、ミューズの舞台で浴衣を着て、しかもプロの謡いをバックに仕舞発表をするという何ともスリリングな体験でした。触れてみるとやはり650年前から続く伝統芸能・動きひとつ、能面ひとつ、装束ひとつとってみても深い意味があります。主役、脇役がいて、地謡、囃子、簡単な舞台装置がありオペラの日本版のような古典演劇です。



ただ観客の想像力に委ねる部分が多く、主役がほんの少し動くだけで、町から山中に移動したり、何年も経ってしまったりますのです。登場人物も美男美女・霊・武将・僧・鬼など様々で、衣装も豪華です。親子の愛情や、理不尽な現実に対しての怒りや悲しみなどの人間模様が小さな舞台に繰り広げられます。気付くとい

つの間にか国立能楽堂に通っていました。

この度、葵の会主催の竹内先生による『古典の名作と能楽のコラボ講座』を楽しく拝聴させていただき感謝しております。



むさし野俳句会（三十年五月）入間公園吟行作品抄

復興にかけしいちごや苺ジャム
空に雲一切あらず桐の花
中天へ吹く夢の敷しやぼん玉
新緑やベンチの下の忘れもの
広々と雀隠れの入間基地
水音の際立つときや花は葉に
吹きぬきの都庁に泳ぐ鯉のぼり
水の辺に赤きテントの家族連れ
天地（あめつち）に生気の勢む五月かな
どの樹にもその樹の色の若葉かな
天を突くポプラ並木に五月来る

中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
宮本 信生
荒幡 千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
海老澤 愛之助
粕谷のぼる
河瀬 俊彦
小林 貞夫

練乳の苺を好む母なりき
草を刈る銃より鎌の似合ひけり
ジョギングの赤きパンツや風薫る
遠くより紅睡蓮の際立てり
若葉風歩け歩けと背を押す
ぼつねんとしやがみてゐたる通し鴨
蔓薔薇のアーチに映ゆる薔薇の園
生家跡はるばる訪へば薔薇の庭
ゆつくりと樹間を歩む薄暮かな
噴水の吹かれ傾く秀先かな

小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋 三加子
高光 泉
利根川 啓一
中嶋 弘子
鈴木 征子
鈴木 すぐる



《編集後記》

パソコンで原稿を書かれる方が殆どになり、判読に困らなくなりましたが変換ミスも見受けられます。「はじめて」は「初めて」なのか、「始めて」なのか文脈から判断しなければなりません。「きく」は「聴く」、「聞く」や「効く」を使い分けが必要です。

また、人名でも「斉藤さん」の斉はどの字なのか、「豊さん」は当用漢字なのか旧字なのか確認が必要です。我々年寄りは漢字制限の無い時代に名付けられ、辞書機能を使って探さないと見付からない事もあります。

気を付けて校正していても見落としが多く、再読すると「あれ!？」という事がしばしば。レイアウトの変更、フォントやポイントの統一など、見易く読む気を起させる配慮も必要です。編集委員が目を皿にして校正した今月号の出来栄はいかがでしょうか？

(松崎 記)

川柳「三三」作品発表

中島 峯生 選

課題「早朝」

早朝の目覚ましがり深夜便
朝早く電話してきて行こう山
宵つ張り三文の得また逃す
三文の徳も得もた深夜便
じいちゃんの散歩にメールパン買って
朝刊を抱えてきた子嫁に行き

「自由句」

父の日に孫と二緒にリボン解く
出番まつタンスの中の紺スーツ
男とはいくつであれど自由人
好かれ過ぎトイレの前で孫が待つ
恐竜展孫に連れられ爺もゆく
多いケガお守り袋もらいもの

丘の河童
突拍子
海さとり
りんご好き
庵閑子
どうし

次回（第33回） 課題「備える」そして「自由句」、
締切り日：6月20日、担当中島まで、どなたでも

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp

FAX04-2928-1161